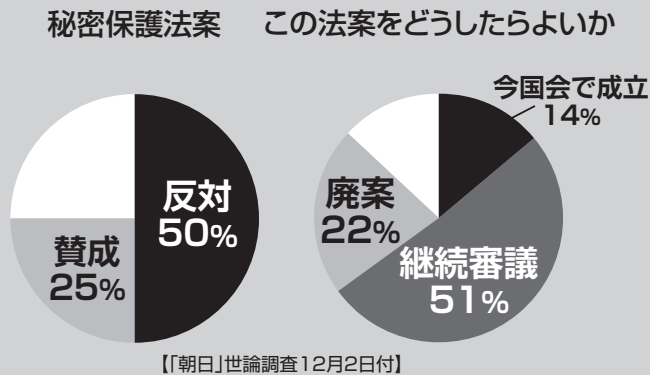


国民の多数は反対 今国会成立とんでもない

安倍政権は秘密保護法案の成立を強行する構えですが、法案の危険な中身が知られるとともに、反対の世論が急速に広がっています。「朝日」世論調査では約3週間で反対が8割増、賛成は5割減となり、慎重審議を求める声は圧倒的です。



広がる反対・懸念

★野中広務自民党元幹事長
「どうして今、この法律（秘密保護法案）があるのか、私はそれがわからない。戦争の足音が聞こえてくる」「善良な人たちが罰せられることになりかねない」（11月17日TBS系番組で）

★映画監督の山田洋次、宮崎駿、俳優の吉永小百合、大竹しのぶの各氏ら映画人が反対表明（12月3日）

こんなことにならないよう
力を合わせましょう



秘密保護法案 あなたが狙われる

秘密保護法案は、秘密をもらした国家公務員だけでなく、一般市民も監視・処罰の対象です。

知らぬ間に… 逮捕



秘密保護法案が恐ろしいのは、国民には「何が秘密かも秘密」ということです。事故が心配で原発を調べたり、米軍基地被害を話し合うだけで、突然、警察から同行を求められたり、逮捕されたりする可能性があります。

知らぬまま… 裁判



「何が秘密かも秘密」であるため、逮捕状にも搜索令状にも犯した罪が書かれませんが、何の疑いがかけているのかも秘密です。裁判の場でも弁明のしようがなく、その秘密を知ろうとすれば、弁護士や裁判官も逮捕です。

知らぬ間に… 監視



秘密を扱う公務員や武器関連メーカーの社員には、秘密をもらす恐れがないか、「危険人物」との接触がないか、国が「監視」することになります。調査対象は家族や親族も。知らないうちに私たちが「危険人物」にされる危険も。

知らぬ間に… 戦争



かつて日本は「大本営」発表で戦争を拡大していきました。根拠の情報が秘密にされれば、国会でもまともな議論すら経ることなく、戦争を始めることになります。国民には真実が分からなければ、戦争を食い止める手段がありません。



制作：日本共産党岡山県女性後援会（しんぶん赤旗）11月19日付より